

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 04020060

政策目標	4	つるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	15	環境の保全	事業優先度	B		
単位施策	4	ごみ・し尿処理の推進	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)		
事業名	廃木材等処理事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	4 住民生活課		
事業主体	町		関係課	#N/A		
事業指標	最終処分場の延命化		関係例規・法令名	#N/A		
事業目標	年間約50t排出される廃木材の埋立回避		ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	有 廃棄物処理法		
住民協働	無		関係個別計画名	有 一般廃棄物処理基本計画		

		全体計画 事業内容	平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容		・年間約50tの廃木材の処理委託	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t	廃木材処理委託 50t
	事業費(千円)	2,520	360	540	540	540	540
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	2,520	360	540	540	540	540
実 績 事 業 費	事業費(千円)	870	360	510	0	0	0
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	738	360	378				
一般財源	132		132				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) ・廃木材は、形成物のまま埋立処理をするには、容量が多すぎるため、最終処分場の延命化を図る方策として粉砕処理施設を有する民間業者に処理を委託	(実施内容等) ・廃木材は、形成物のまま埋立処理をするには、容量が多すぎるため、最終処分場の延命化を図る方策として粉砕処理施設を有する民間業者に処理を委託	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・ごみ処理手数料	【評価・実績】	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	処理量50t	処理量50t	処理量50t	処理量50t	処理量50t
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	94%	0%	0%	0%
		全体達成率	14%	35%	35%	35%	35%
	事業進捗状況	☆☆☆☆					

事業名	廃木材等処理事業	評価者 管理職 職氏名	住民生活課長	淡路 至尊
		評価者 作成者 職氏名	環境衛生係長	苫米地 幸二

様式1  
平成26年度実施  
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民から排出される廃木材	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	廃木材の埋立回避	
【抱える課題やニーズは】	最終処分場の延命化	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	廃木材の埋立回避	① 最終処分場への埋立回避総量	目標年度	平成26年度
			目標値	67 t
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	新たな経費負担(最終処分場の建設)の回避	②	実績値	67 t
			達成度	100.0 %
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	廃木材処理委託	廃木材の処理を委託することにより、最終処分場への埋立を回避し同施設の延命化を図る。	目標年度	平成26年度
			目標値	
			実績値	
			達成度	#DIV/0! %

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	廃木材の埋立回避は、最終処分場の延命化を図る上で有効な手段であり、今後も必要な事業である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	67tの廃木材の最終処分場への埋立が回避されており、最終処分場の延命化が図られていることから、有効な事業と判断する。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	廃木材の埋立回避は、最終処分場の延命化が図られており、新たな経費負担の回避が図られていることからコストに見合った効果が得られていると判断する。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	廃木材の排出者には、排出量に対し応分の手数料負担があるため公平と判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担がある	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>A</b>		
最終処分場の延命化を図るためには、埋立量の減量を図る必要がある。本事業は埋立量を減らす有効な手段であり、今後も計画通り執り進めることが必要であります。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
廃木材については、形成物のまま埋立処理するには、容量が多過ぎるため、廃木材の処理委託を継続して実施し、最終処分場の延命化を図ることが必要である。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止